

氏名	小林孝一郎
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 5022 号
学位授与の日付	平成 26 年 9 月 30 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Clinical Outcomes of Unrelated Donor Umbilical Cord Blood Transplantation for 30 Adults with Hematological Malignancies (成人造血器悪性腫瘍 30 症例に対する非血縁者間臍帯血移植の臨床成績)
論文審査委員	教授 吉野 正 教授 平松祐司 准教授 塚原宏一

学位論文内容の要旨

従来、同種造血細胞移植の適応とはならない患者への治療の一つとして、近年、臍帯血移植(cord blood transplantation : CBT)を試みる症例が増えているが、成人例における CBT は、移植時の各疾患リスクにおいて、各々有効な治療法かどうかの評価は定まっていない。

我々は岡山大学病院において、非血縁者間臍帯血移植を施行した成人造血器悪性腫瘍 30 例の臨床成績について解析した。21 例が移植時ハイリスク症例と分類された。移植臍帯血の総有核細胞数の中央値は $2.65 \times 10^7/\text{kg}$ であった。23 例で好中球の生着が認められた。II から IV 度の急性移植片対宿主病は 53.6%の症例に認められた。11 例が生存しており、無病生存期間は中央値が 446 日であった。リスク別の 1 年全生存率は標準リスク群 63.5%に対し、ハイリスク群は 15.4%であった。

後方視的解析であるが、これらの結果から、HLA 一致骨髄バンクドナーや血縁末梢血幹細胞ドナーが見つからない場合において、標準リスク群の成人例に対する CBT は、安全かつ有効な治療法であることが示された。

論文審査結果の要旨

本研究は非血縁者間臍帯血移植を施行した成人造血器腫瘍の後方視研究である。本学病院において上記がなされた 30 例を解析した。21 例が移植時ハイリスク症例と判定された。23 例で好中球の生着が認められ、II から IV 度の急性 GVHD は 53.6%に認められた、11 例が生存しており、無病生存期間の中央値は 446 日である。リスク別の 1 年全生存率は標準リスク群 63.5%、ハイリスク群 15.4%であった。今回の結果から HLA 一致骨髄バンクドナーや血縁末梢血ドナーが見つからない場合において標準リスク群の成人に対する臍帯血移植は有効な治療法になることが考えられた。

研究の目的、手法、結果とその解釈とも適切になされており、臍帯血移植に関する重要な知見を得たものと評価される。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。